

未踏

道が続く、果てしなくもまた
色彩のない広漠とした秘境へと
憧れもなく、ただ運命だけが私を追いやる

心躍らせる色彩も音もない湿った哀しみが
凍えた身体を自ら抱き締めてうずくまる
俺が行かないで誰がお前を温めてやれるものか

陽光に満ちた幸福に微笑を送って
希望を振り切り、希望の苦しみを背負い
戻ろうとしても戻れない所まで一気に駆ける

(1984.9.23)